

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 296 号	氏名	西條 知見
学位審査委員	主 査	松山 俊文	
	副 査	由井 克之	
	副 査	有吉 紅也	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p><i>Candida</i> 属の深在性真菌症において <i>C. glabrata</i> は <i>C. albicans</i> に次いで頻度が多いことが知られている。本研究では <i>C. glabrata</i> の酸化ストレス応答と病原性の関係について酸化ストレス応答に関与するとされる転写因子 Skn7p の役割から解明しようとしたものであり目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p><i>C. glabrata</i> における酸化ストレス応答と Skn7p の役割を明らかにするために <i>C. glabrata</i> の <i>SKN7</i> 遺伝子欠損株、<i>SKN7</i> 遺伝子再挿入株を相同組み換え法によって作成した。遺伝子改変株の確認は PCR 法、サザンブロット法にて行った。酸化ストレス応答については H₂O₂ などの薬剤を含有した培地での増殖能や H₂O₂ 存在下での酸化ストレス応答遺伝子の転写活性化能から検討した。また病原性はカンジダ血症マウスを作成後 7 日目の臓器内菌数を比較することで検討した。これらの研究手法は目的に沿った妥当なものである。</p>			
<p>3. 解析・考察の評価</p> <p>本研究から Skn7p は <i>C. glabrata</i> において酸化ストレス応答と病原性に重要な役割を果たしていることが示された。これらの研究成果は深在性真菌症の解明に寄与するところが大きく評価できる。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			